

社会科学の研究法 with デザイン思考: ビジネススクール編:ワークシート

プロトタイプ
2019.7.9



早稲田大学ビジネススクール
科学技術とアントレプレナーシップ研究部会編



「関心分野、興味ある事象、自身・企業・社会の抱える課題」などのキーワードを10個程度記述してください。

あなたの研究テーマのタイトルをまとめてみましょう。空欄を埋めてください。必ず4つとも入れるようにして下さい。

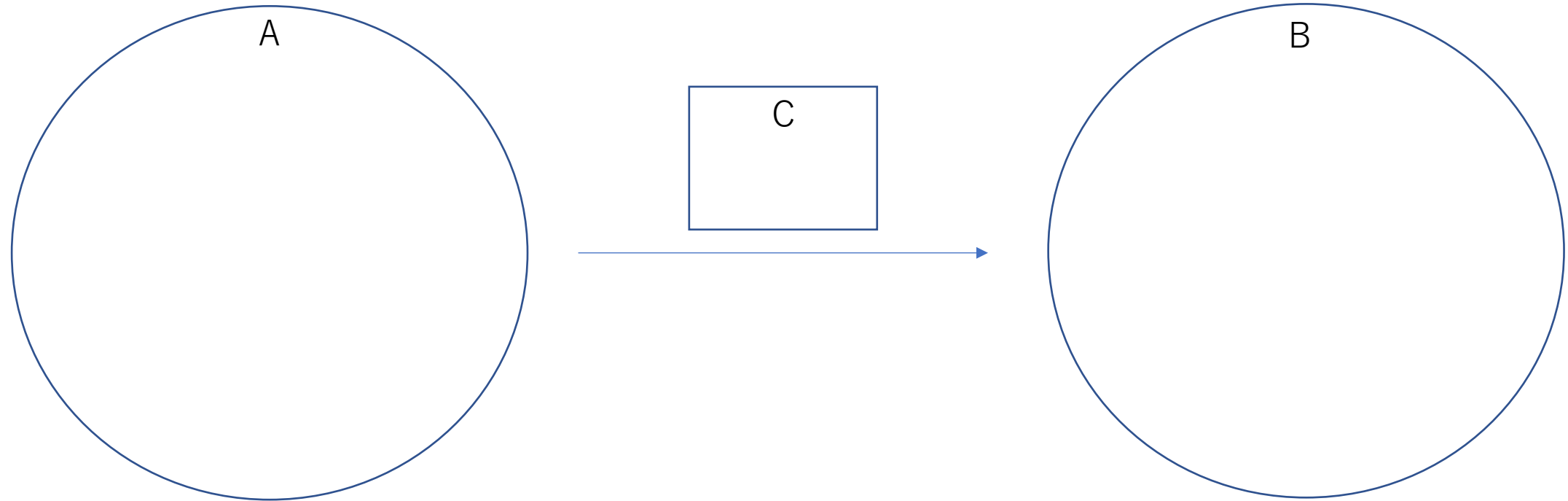
[1] (A) _____ が (B) _____ に与える影響に関する研究

[2] (C) _____ による (D) _____ の実現方法に関する研究

この研究を実現することで、あなたのキャリア形成にどのようなつながるのがまとめて下さい。

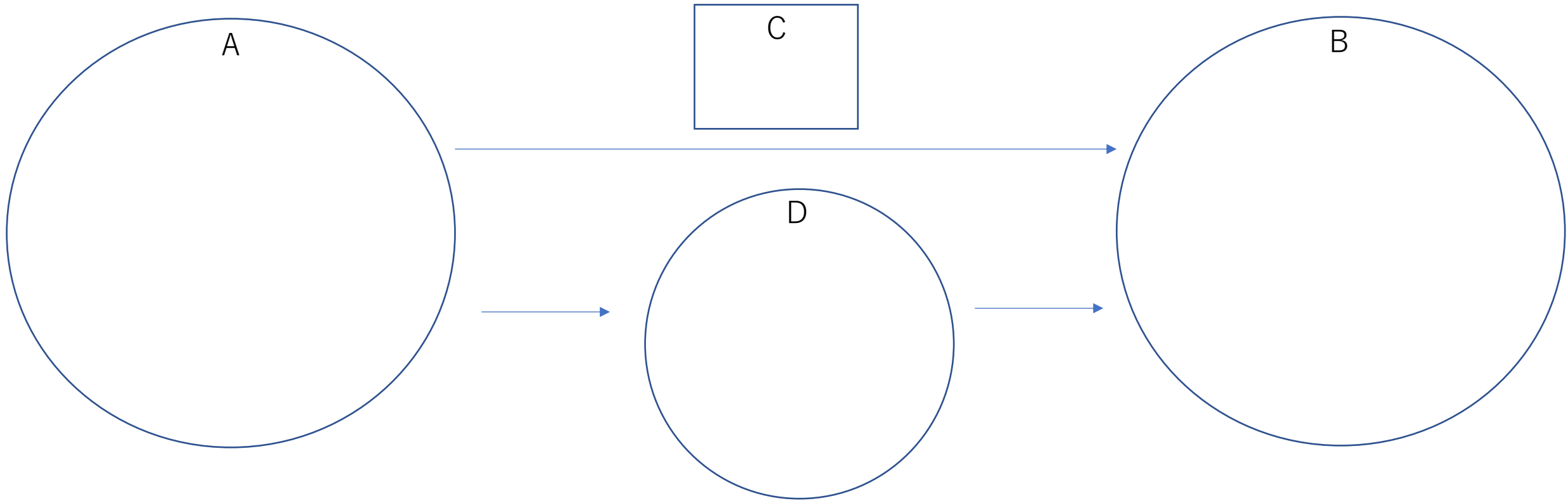
タイトルについて、[1]と[2]のどちらがあなたがよりやりたい研究ですか?どちらが手段で、どちらが目的ですか?その理由をまとめてみて下さい。

因果関係の図



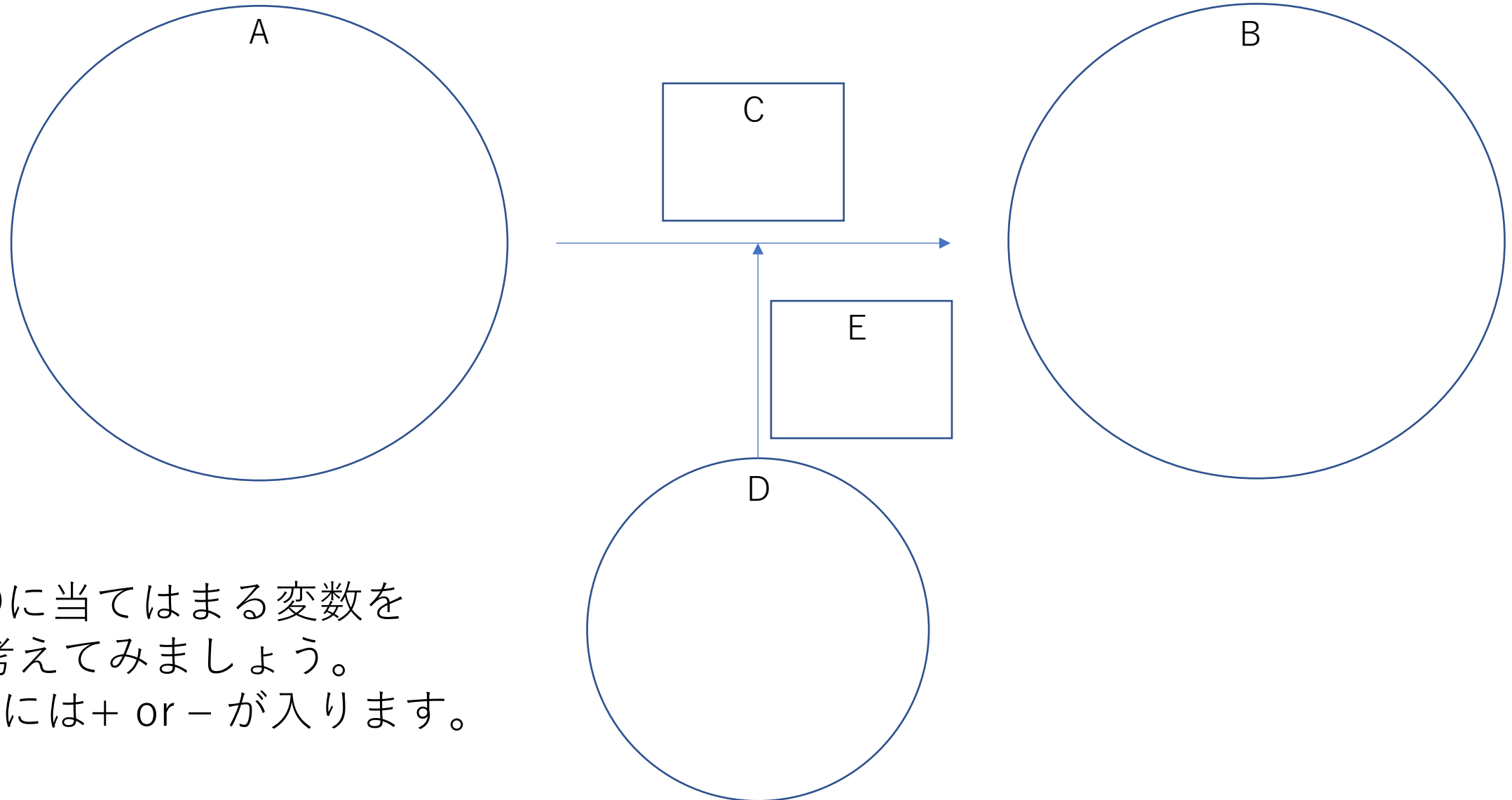
ABに当てはまる変数を考えてみましょう
Cには+ or -が入ります。

ちょっと複雑な因果関係の図(1): 媒介効果 (Mediation)



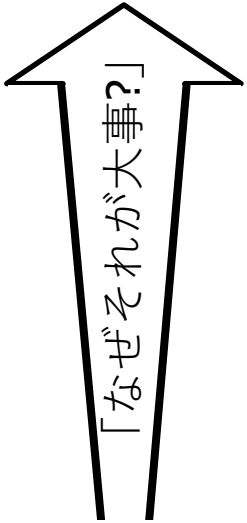
Dに当てはまる変数を考えてみましょう

ちょっと複雑な因果関係の図(2): 調整効果(Moderation)



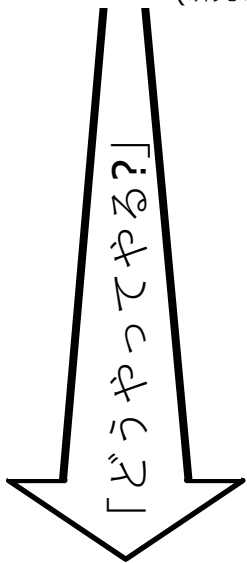
Dに当てはまる変数を
考えてみましょう。
Eには+ or -が入ります。

目的・理由



Why How Laddering

(研究テーマを記入)



手段・方法

スタンフォード大学d.schoolによる”Research as Design Workshop”のワークシートを翻訳・一部改編

ペルソナ分析: あなたの研究によって、幸せになる人は誰ですか?
その人はどんなことに困っているのでしょうか?
自分以外に幸せになる人の代表的なペルソナをまとめてみてください。

あなたの研究のニーズをペルソナにインタビューすることを想定し、質問リストを策定して下さい。

研究の社会へのインパクト

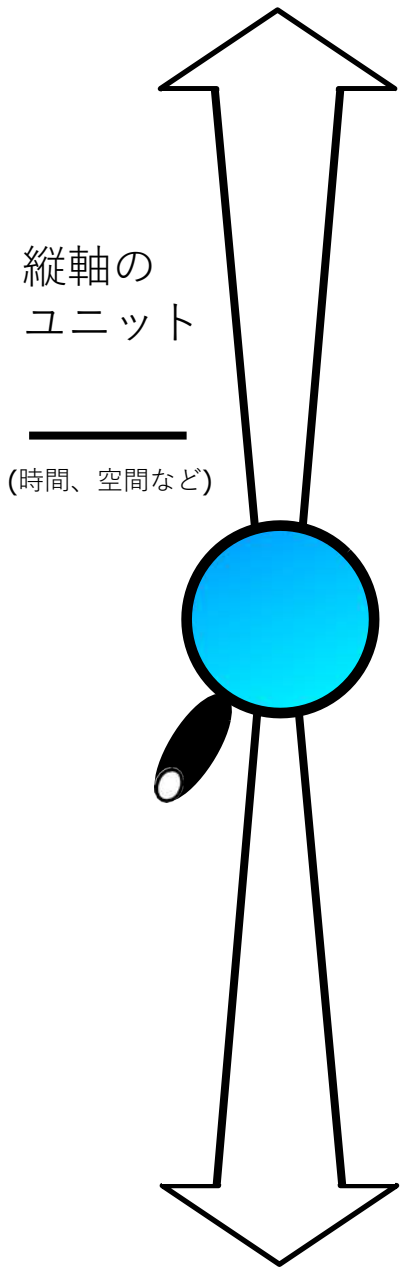
WBS ERS Student Paper アワード: 創設の背景

グローバル化が進展する現在、早稲田大学の建学の理念の1つである「模範国民の造就」は、「地球市民の育成」と読み換えられている。世界的に見ても、産業界および学界では、社会的課題解決や、**CSV** (Creating Shared Value)、**social entrepreneur**といったことに、関心が寄せられている。そこで、ビジネススクールとしても、今日、“**globally responsible citizen**”の養成が、重要な使命として位置づけられている。主要国際認証機関においても、**ERS (Ethics, Responsibility and Sustainability)**が重要視されている背景があり、以上のことから、**WBS**では**ERS**の趣旨に沿う在学生・修了生の活動を奨励している。

<https://www.waseda.jp/fcom/wbs/about/ers>

”Globally responsible citizen”として、あなたの研究が、社会にどんなインパクトを生み出すのでしょうか。

Powers of 10



x 10000 -----

x 1000 -----

x 100 -----

x 10 -----

—————
(解決したいと思う課題と範囲を記入)

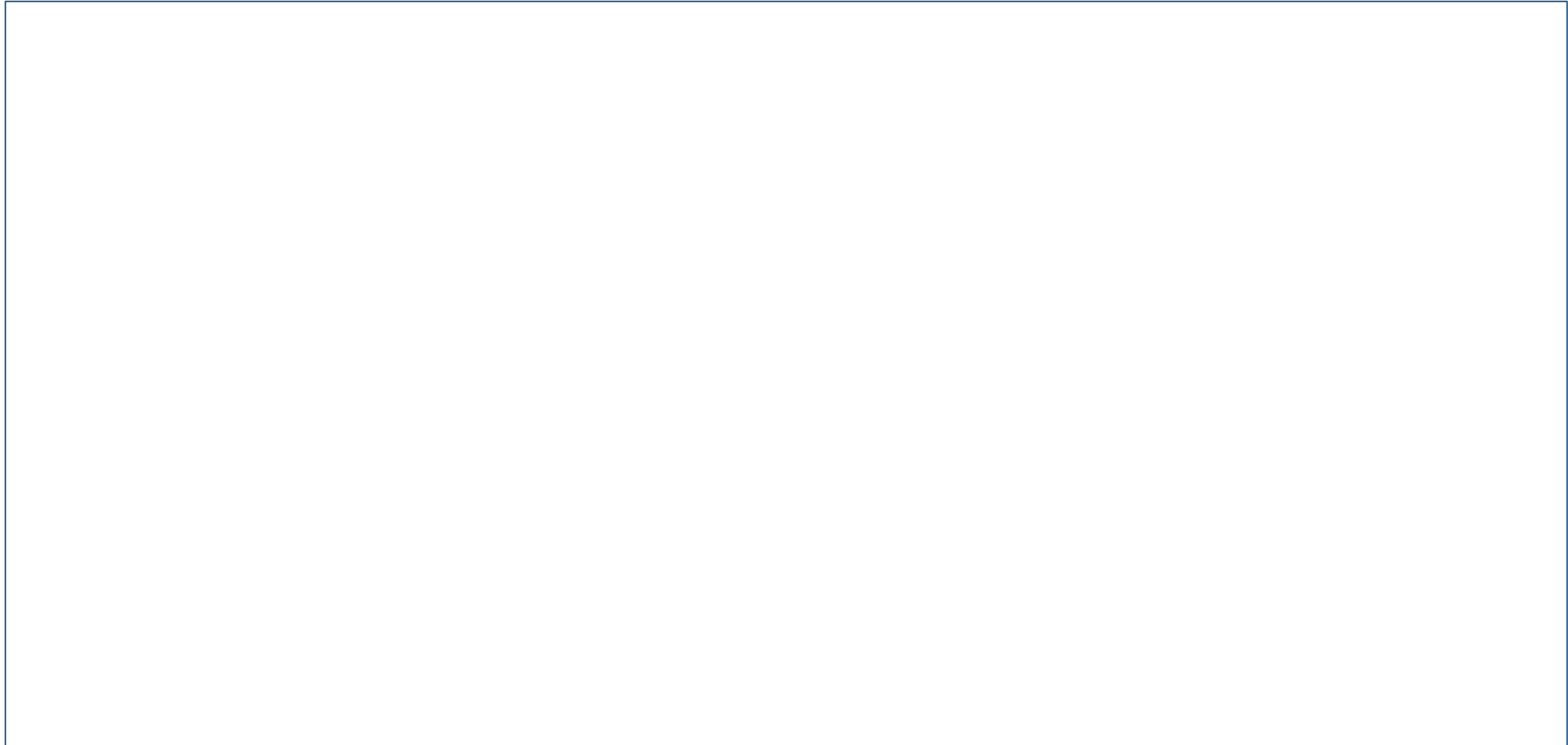
x 1/10 -----

x 1/100 -----

x 1/1000 -----

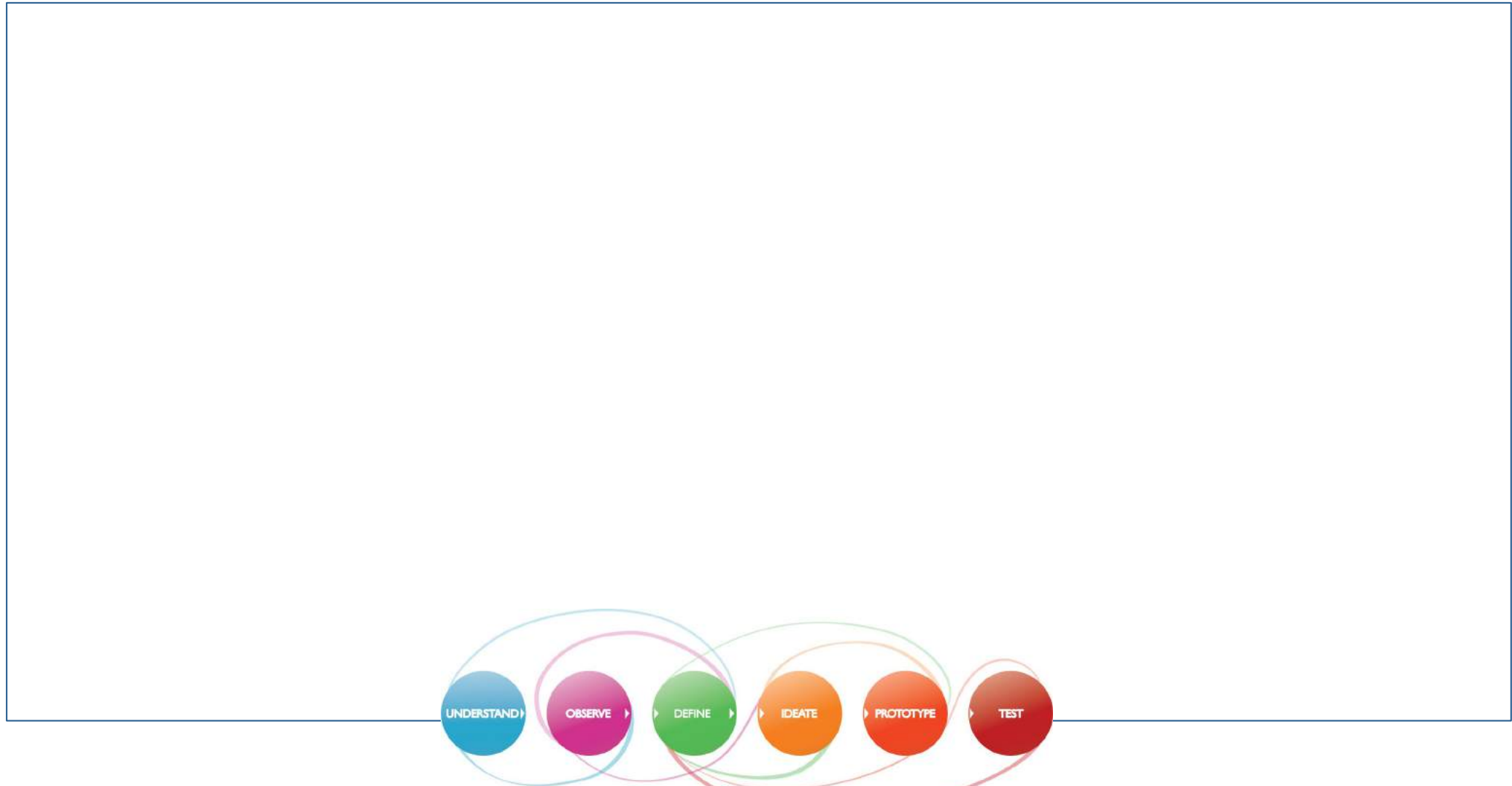
研究のプロセス

研究を完成させるために必要となるステップを図示してください。
デザイン思考のプロセスが有効に活用できそうな場所に、印をつけてください。



研究とデザイン思考プロセス

あなたの研究プロセスを、デザイン思考のプロセスにフィットする形で図示してください。
何回のiteration (繰り返し)を行いますか？



スタンフォード大学d.schoolによる”Research as Design Workshop”のワークシートを翻訳・一部改編

プロトタイピングとしての研究

「プロトタイプは、~~デザイン~~ 研究の課題や結果を評価するための手段を与えてくれる。プロトタイプのフォーカスを決めることは、最も重要な~~デザイン~~研究上の課題を識別することである。」

Houde and Hill, "What do Prototypes Prototype?" より

プロトタイプを作成する際に重要なことは、テスト的にやってみることはなんでも新しい学びにつながる可能性があるということである。プロダクトのデザインの場合は、製品の製作方法を決定するために試作のデザインに対してユーザーからのフィードバックをもらう。研究の場合は類似機能を含めた活動の全体的な領域を考えるだろう。本来は、以下の質問を問いかけるような行動や会話、あなたが書く・発表する・創り出すモノ（こと）はプロトタイプと考えられる。

私は（この考えを持って）前進する、あるいは（現在ある問題を解決しながら）進歩するために何を知る必要があるだろう？

何が研究に特化したプロトタイプかを探るために、以下の質問をあなた自身に聞いてみては？

より早く単純な方法で前進するために、どのように情報を集めたらいいのか？

d.schoolプロトタイプのマントラ(真言)は “早い段階で、何度も失敗せよ”である。

自分の考えを繰り返し考え、フィードバックをもらうという作業を少なくしようとする、避けられない間違いをすぐに起こすことになり、結局はすばらしい考えに到達する回り道になる。

プロトタイプとしての研究

プロトタイプを作成する理由は数多くある。

- ユーザからのエンパシー(共感)を得るため
- 自分自身が更なる解決策を探索するため
- 解決策をテストし改善するため
- あなたのビジョンによって周囲の人をインスパイアするため
- 異なる意見をまとめるため
- チーム・メンバーやユーザと会話をスタートするため
- より早くより安く失敗するため(複数の解決策をテストする)
- 上流過程において、多くの時間と資金を使うのを防ぐ
- 問題解決のプロセスをマネージするため。大きな課題をより小さなテスト可能な課題に分割することで、変数を発見する

思い出してみよう…

何をプロトタイプにするかを選ぶとき

- どんな状況で誰に見せるか？
- そこから何を学ぼうとしているのか？
- 学んだものをどう評価するのか？

思い出してみよう…プロトタイプをつくる基本ルール

1. 1質問に対して、1プロトタイプ
2. 十分に深慮
3. 完璧になる前にやめる
4. なるべく細かく分解する
5. 自分のプロトタイプに執心しない
6. 常に複数のプロトタイプを創り共有する
7. 何かを引き起こすような、促すようなものを創る

研究におけるプロトタイプとはどんな見方で、どんな形なのでしょう。
リサーチ・プロセスにおいて、プロトタイプはどのようにフィットするでしょう。

あなたが過去数カ月で行なった研究活動においてプロトタイプはありましたか？
もしくは研究活動の中でプロトタイプを活用できたかも、と思うときはありましたか。

どんなプロトタイプ？	誰に見せる？	何を学ぶことを目的に？	どのように評価する？

あなたの研究テーマを、読み手が読みたいと思うようなキャッチーなタイトルをつけるとすれば、どんなタイトルにしますか?タイトル、サブタイトルの組み合わせを含めて、5つ程度アイデアをだしてみてください。

A large empty rectangular box with a thin blue border, intended for the user to write their ideas for titles and subtitles.

定性研究のプロトタイプ: インタビューの依頼状

インタビュー候補者を具体的に個人名であげてみましょう。

どんな目的の調査か、相手のメリットが何かを簡潔にまとめましょう。

主な質問項目をまとめてみましょう。全体でどのくらい時間をかけて聞きたいか書きましょう。

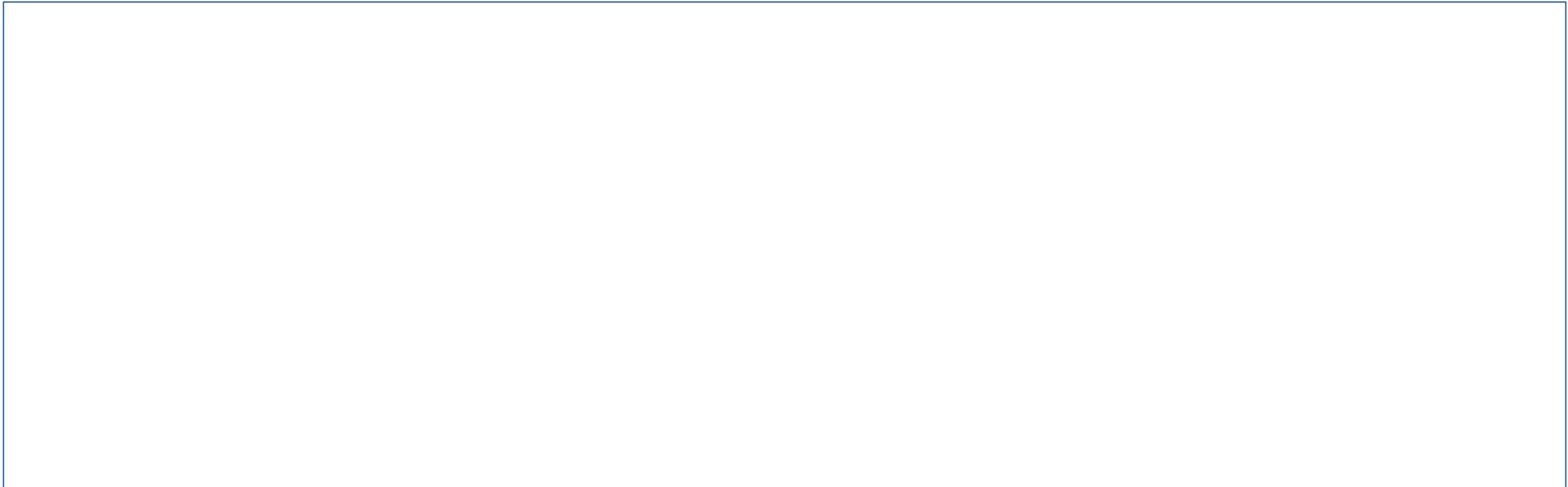
定量研究のプロトタイプ: データセットのスプレッドシートのイメージ

サンプルに関わる変数	変数1	変数2	変数3	変数4	変数5	変数6	変数7	変数8	変数9
サンプル1									
サンプル2									
サンプル3									
サンプル4									
サンプル5									
サンプル6									
サンプル7									

Deploy or Die?

アカデミアの世界では、伝統的に”publish or die?” (論文を書くか死ぬか)という言葉が一般的です。MITメディアラボの所長であったニコラス・ネグロポンテ氏はそれを書き換え、”demo or die?”(デモを作るか死ぬか)を組織のモットーとしました。現MITメディアラボの所長である伊藤穰一氏はそれから更に一步踏み込み、”deploy or die?” (展開するか死ぬか)をモットーとしています。

ビジネススクールにおける修士論文は、論文を書いて終わりではなく、そこで生み出したものを社内や社会、自分自身のキャリアに「展開して」(普及させて、実際に活かして)、はじめて意味のあるものとなります。さて、あなたは自分の研究成果をどのようにして、”deploy”しますか？



[参考文献]

- スタンフォード大学d.schoolによる”Research as Design Workshop Resource Packet”
- 首都大学東京ビジネススクール竹田陽子氏「公共経営アクションリサーチ デザイン思考で再構築するパブリック・リレーション」

[作成者]

- 牧 兼充 (早稲田大学ビジネススクール准教授)
- 高山 千尋 (早稲田大学ビジネススクール 2019年3月修了)
- 石井 美季 (早稲田大学ビジネススクール牧研究室)

Giving

このワークシートは、早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター 科学技術とアントレプレナーシップ研究部会の研究活動として作成したものです。今後のこのような教材を拡充していくことを目的に寄付を集めております。このワークシートを活用してみて、ご興味持った方は以下のサイトをご覧ください。

<http://www.stentre.net/about/giving/>

■ 利用許諾 ■

- 1) 当ライセンスは、教材の著作権を保有する教材作成者の同意を受け、早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター・科学技術とアントレプレナーシップ研究部会が利用許諾を行っております。
- 2) オンライン・オフラインを問わず、無断での改変を禁止します。
- 3) 当教材は営利利用を除き、クリエイティブコモンズライセンス (<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja>) の下に無料で配布されております。
 - 3-1) 当教材を利用して、著作権保持者以外が「営利活動において同時に 3 部以上の複製を用いた研修や講義を行われる場合、または非営利団体において有料セミナー等に利用 (=以下、営利利用)」される場合は、当該教材を作成するにあたり要した調査費・作業費等の実費として一部につき 500 円と、一回のご注文につき 1000 円の事務処理費用のご負担をお願いしております。
 - 3-2) 営利利用をご希望される場合は、請求書及び領収書をお送り致させていただきますので、下記必要事項をご記入の上、電子メールにて (case@stentre.net) までお送り下さい。
 - 3-3) 上記規定に関わらず、学校教育法で定めるところの学校法人 (学位取得を目的とした専門職大学院を含む) における授業利用はこれを無料とします。
 - 3-4) 当教材を利用した研修や講義を録画・録音される際、又は当ライセンスにおいて想定されていないと考えられるその他の方法でのご利用を希望される場合は、電子メールにてご相談下さい。
- 4) 当ライセンスに関する質問・ご意見・疑問点がございましたら、又は当教材の不正な利用を発見された方は、case@stentre.net までご連絡頂きますようお願い致します。
- 5) 当ライセンスに関するより詳しいご説明は、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/3.0/legalcode> をご覧下さい。

[3-1で規定する「営利利用」を希望される際のメールへのご記入事項]

1. 団体名・住所・電話番号・メールアドレス
2. 担当者名・連絡先メールアドレス
3. 必要な教材の名称・利用部数・利用形態の詳細

以上をご記入の上、 case@stentre.net までお送りください。ご負担頂く実費・手数料のご請求をお送りさせていただきます。

